

北方領土青少年等現地視察事業に参加して

広島県視察団長 原之園和弘

1 日 時 令和5年8月17日(木)～8月20日(日)

2 参加メンバー

団長1名 広島県教育委員会指導主事1名 広島市教育委員会指導主事1名

4つの中学校から教諭4名 生徒17名 報道として1名 計25名で参加

3 行程

○7月31日(月)

広島市立中広中学校の重主幹教諭を講師として、「北方領土問題」とはどのような問題なのかを学習した。

課題を探求できるようなワークシートであったので、生徒たちは一人一人が考え、またグループ内で知恵を出し合い問題点に迫っていった。最後には一人一人がそれぞれの課題を設定することで今回の視察に対して意識を高め臨んだ。



○8月17日(木) 広島晴天 中標津空港は小雨

台風7号の影響で北海道地方は曇天から小雨の天候であった。

中標津空港から野付半島ネイチャーセンターに到着。

野付半島ネイチャーセンターでは学芸員の方からの説明があり、生徒たちは熱心に聴いていた。また質問をする生徒も多く課題意識の高さを感じた。学芸員の方が「ここにある展示物は国後島から流れ着いた漂流物です」と漂流物を指さし説明していただいた。ネイチャーセンターを後にし、本日の最後の目的地開陽台展望台に行く。



広島は天候に恵まれていたが、北海道では台風の影響もあり、曇り空時々霧雨の天候であった。しかしながら指導主事・教諭・生徒たちも初めての北海道ということで、見るものや聴くことがとても新鮮であったようである。また道路には広島では見ることのない道路標識があり興味を持っていた。道路はまっすぐに整備され、ガイドさんからは「この地方はまず道路を整備しその後集落を作った」との説明を受け参加者は納得の表情であった。



実際に北海道の空気を吸うことで多くのことを感じられる初日であった。



○8月18日（金）晴天

午前中は納沙布岬・北方館視察 館長の出迎えがあり、最初は北方領土返還祈念シンボル像の「四島のかけ橋」にてこのシンボルの説明を受ける。また近くの「希望の道」に置かれている各都道府県の石畳に触れることができた。改めて全国の人たちの北方領土返還の意識が高いことを感じる事ができた。その後日本で最東に位置する納沙布岬に立ち、貝殻島の灯台を見ることができた。生徒たちはこのように近くにある島が、ロシア領になっていることに衝撃を受けていた。また周りに目を向けると、国後島の「泊山」「羅白山」そして「爺爺岳」を見ることができた。ツアーの方も「この時期見ることができてとても珍しい。」と話されていた。北方館では歴史的な事、その背景、当時ソ連軍の突然の侵略・略奪行為、日本政府の言い分等説明されました。

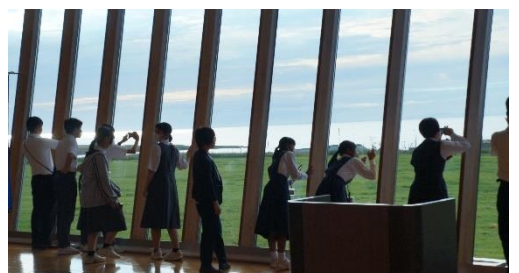
昼食後、温根沼を抜け温根沼大橋を渡り、根室市長への表敬訪問。石垣雅敏根室市長からは北方領土の歴史的な説明を丁寧なされ、北方領土への理解が深まりました。最後に市長の親族（父親）の話を心情的に語られた。



本日最後の研修は北方領土の授業としてニ・ホ・ロ交流ホールにて、元島民の鈴木咲子さんの話を拝聴することができた。内容はソ連軍が突然侵入し、家族のものを奪われ息を殺して隠れていたこと。その後強制退去されたのであるが、一度樺太かの収容所で飢えと寒さに耐えながら過ごしたこと。1992年から始まったビザなし交流。ふるさとの択捉島へ墓参できるようになった。その中で20代の青年から「私たちを恨んでいませんか」と言う言葉から当時の記憶がよみがえり、力を合わせて生活したこともあり、民間人は決していがみ合いはなかった。最後に将来ロシア人と一緒にふるさとで暮らすのも悪くないかと考えるようになった。

こういった経験談や今の気持ちを拝聴することで北方領土問題の本質的なところが少しずつではあるが、参加していた視察団には浸透していったと思われる。

8月19日（土）晴天 朝夕は広島に比べてやや涼しいと感じられた。午前中は根室市歴史と自然の資料館での研修。学芸員からの丁寧な説明がありました。この資料館は郷土の考古学者である北溝保男博士の研究物も展示されていた。中でも一番注目していたのが、日露戦争後の講和条約（ポーツマス条約）の中



で樺太の北緯50度以南が異本の領土になっていた旧樺太国境線（1号～4号）のうち第2号が展示されていたことで教員はとても興奮し感動していた。また生徒たちは学芸員さんからの説明にしっかりとメモを取りながら聴いていた。また広島と根室との関係も説明していただき、根室を身近に感じる事ができた。



午後からは伊藤牧場での北海道体験。自分たちでバターを作り、作ったバターをベーグルにつけ食べる。伊藤牧場で飼育されていた短角牛のビーフシチューを合わせての昼食であった。初めてのバターづくりで生徒たちも教員も大変喜んでいて。後、乳牛の乳搾りや餌やり等の体験。牧草ロールに上がることはみんな初めてだったので大変興味深かったようであった。



その後、それぞれの学校ごとに牧場内を散策し、小動物たち（ウサギなど）に餌をやるなどして楽しんだ。



8月20日（日）曇り～小雨

最終日は天候が崩れ、あいにくの小雨であったが最終日ということで最後まで研修を続けた。別海北方展望台では学芸員がいなかったので、2階と3階に展示している資料を記録していた。晴天であれば国後島が目の前であるので見る事ができたのだが、結局できなかった。次に標津北方領土館でも同様に各自が資料を記録し見学していた。

最後の見学地、標津サーモン科学館では学芸員さんから「鮭」に特化した科学館の説明を受けた後、生徒たちは館内を見学していた。この2階には日本遺産として「鮭の聖地物語」として標津町を舞台に数多くの者が展示されていた。生徒たちはその一つ一つに立ち止まり記録していた。



4 成果

今回、4年ぶりの「北方領土青少年等現地視察事業」であった。令和元年度とは違い、現在はロシアがウクライナ侵攻し社会的に厳しい状況。ビザなし交流も不透明である。そのような中ではあったが、広島から25名の視察団が北海道に視察することは大変意義深く感じた。

- 生徒や教諭が北方領土を目の前にすることは感慨深い貴重な経験となった。
 - 日本の最東に位置する納沙布岬に立つことで北方領土への意識が高まった。
 - 北方館での館長さんからの話から歴史的なことを多く学ぶことができた。特に史実に基づいた事実を学ぶことで知識が深まった。
 - 根室市長さんからの講話を聴くことで、広島代表としての意識や気持ちが引き締まった。
 - 北海道立北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）での元島民、鈴木咲子さんの実体験を拝聴できたことは元島民の意思を引き継ぐ意味でも大切なことだと感じてもらった。
- また広島でもそうであるが、語り部の方々の平均年齢が87歳を超えてきている。語り部さんの生の声を聴くことはとても貴重である。
- 北海道立北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）館内を学芸員さんが丁寧に説明・案内してくれたことで北海道の幕末からの歴史がよくわかり理解できた。
 - 牧場体験では、普段体験できないことを北海道独自の牧場経営について学ぶことができたことはとても貴重な体験活動であった。

5 課題

- 多くの生徒たちが参加した研修旅行。時間があれば現地（根室市）の同学年との交流もあっても良かった。今回の生徒たちはそれぞれ学校の代表として、それぞれの学校から今回の問題点や課題について発信していく立場にある。広島の生徒の気持ちと北海道の生徒の気持ちには微妙に違いがあると思われる。広島市であれば「平和教育」に特化した授業も展開されている。北海道ではこういった形でこの北方領土の問題が展開されているのだろうと思う。そうすると、現地の生徒との交流もあって良いと考えられる。
- 北方領土問題を社会科だけの学習に取り上げるのではなく、広く周知させるためにも、考え議論する「道徳科」でも取り上げることも一つの方法だと思う。